子宮頸がん予防ワクチンの接種費用の助成がスタートします

ワクチンの供給量不足で差し控えていた子宮頸がん予防ワクチン接種の助成を、8月1日から開始します。

この予防接種は、法律に義務付けられた予防接種ではなく、対象者と保護者の希望による任意接種です。この助成制度はワクチンの副反応があることや効果等を十分に理解された上で、接種を希望される方に対して助成するものです。

市では、ワクチンの副反応に配慮して、ワクチン接種を受ける場合には、保護者(都合がつかない場合は、委任状持参の上、接種対象者の健康状態をよく知っている祖父母や親族など)の同伴を必要としています。

対象者　中学1年から高校1年に相当する年齢の女子

標準的な接種方法　3回接種(初回接種後、1か月後と6か月後)

申請方法　助成を受けるためには事前に申請し、予診票を受け取ってください。

※高校1年の方が年度内に接種を完了するためには、8～9月に初回接種を行う必要があります。希望される方は、早めに申請をしてください。

日時　平日午前8時30分～午後5時15分

場所　市保健センター、各支所地域振興課(支所で申請された場合、予診票は後日郵送となります)

持ち物　母子健康手帳、健康保険証

接種方法　予診票を受け取り、医療機関で予約する(接種可能な医療機関は申請時にご案内します)

※中学1年～高校1年に相当する年齢の女子とその保護者を対象として、子宮頸がん予防の講演会を開催します(下段参照)。

問合先　健康推進課 ☎35-3160

子宮頸がんのQ&A

Q 子宮頸がんは予防できるのですか？
A がんになるまでに数年から10数年ありますので、この間にがん検診を受けていれば、早期に発見し、治療することができます。また、ワクチンを接種していても、子宮頸がんはいろいろなタイプのHPVでの発がんの可能性もありますので、定期的にがん検診を受けることが大切です。

Q ワクチン接種による副反応はありますか？
A 接種された方の10%以上の頻度で、かゆみや注射部位の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)、筋肉や関節の痛み、頭痛、疲労などの副反応が報告されています。また、重い副反応として、まれにショックまたは失神を含むアレルギー反応、血管浮腫が認められることがあります。

Q ワクチン接種により健康被害が生じた場合の救済制度はありますか？
A 市が加入している全国市長会の「予防接種事故賠償補償保険」または独立行政法人医薬品医療機器総合機構による「医薬品副作用被害救済制度」のいずれかで救済されることになります。

Q 子宮頸がんとは、どんな病気ですか？
A 子宮頸がんとは、子宮の入り口「子宮頸部」というところにできるがんのことです。最近は、特に20代から30代の女性で子宮頸がんの患者さんが増えていて、進行すると子宮を摘出するだけでなく命にかかわることもあります。現在日本では、年間約8,500人が子宮頸がんにかかり、約2,500人が亡くなっています。

Q 子宮頸がんの原因は何ですか？
A 子宮頸がんの原因は、性行為で感染するヒトパピローマウイルス(HPV)といわれています。このウイルスに感染すること自体は特別なことではなく、性交経験がある女性であれば誰でも感染する可能性があります。ほとんどの場合、ウイルスは自然に排除されてしまいますが、ごく一部のケースで数年から十数年かけて前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症します。

Q ヒトパピローマウイルス(HPV)とはどのようなウイルスなのですか？
A HPVは、現在100種類近く発見されていますが、そのうち40種類余りが女性の病気を引き起こすことが明らかにされてきました。がんを発生させることはほとんどない種類もありますが、一部のHPVはがんの発症につながる種類でハイリスクHPVと呼ばれます。感染してから発がんするまで数年から10数年かかるとされています。

子宮頸がん予防の講演会を開催

演題　子宮頸がんの予防について
～検診とワクチン接種～
(ワクチンの効果や副反応の説明もあります)
講師　脇田勝次(わきたかつじ)さん(高山赤十字病院産婦人科部長)
期日　9月7日(水)　午後7時～8時
場所　市保健センター(花岡町2)
※入場無料です。